

多義的視覚形容詞の意味拡張に関する一考察

— 「暗い」と“暗”の中日対照研究を中心に—

趙

萱*

1. はじめに

形容詞の意味拡張は人間の認知的メカニズムの解明に非常に有意義な課題だと言われている。それに加え、五感形容詞の意味拡張について理解を深めるために、まずそこにおいて中心的かつ豊富な内部構造を持っている視覚形容詞の意味拡張のメカニズムに焦点をあてて考察することが極めて重要である。しかし、中国語と日本語はいずれにせよ、視覚形容詞において色彩形容詞（例：青い、赤い；白，黄）が広く研究されているのに対して、「明るい」や“暗”といった光を表す形容詞はまだ研究する余地があると言える。

また、「暗い」と“暗”は類似な用法がある。例えば、「この服は色が暗い」は言えると同様に、“这件衣服的颜色很暗”は中国では広く使用されている。それにもかかわらず、その両者には全く異なる用法が見られる。例えば、“暗伤”は言えるのに対して、「暗い傷」は日本語において正しくない表現になってしまう。そういう多言語の使い方の対称性あるいは非対称性、そしてその背後に隠れている原因に関する考察は極めて興味深くかつ有意義だと言えるのではないだろうか。

したがって、本稿はまず「暗い」と“暗”のプロトタイプの意味を認定して各意味項目の関係を明らかにする。そして、その意味拡張のプロセスと包括的な多義構造について考察し、形容詞の意味拡張の認知の動機づけを分析してから、「暗い」

と“暗”の意味ネットワークを構築する。最後は両者の意味構造と意味拡張を対照し、その非対称性に関する原因を分析してみる。

2. 先行研究

2.1 「暗い」と“暗”に関する先行研究

「明るい」についての研究は少なくないが、「暗い」を研究対象とするものはほとんどない。一方、中国語の“明”と“暗”を研究対象とするものは管見の限り、あまり見られなかった。

大石（2007）は日本語の形容詞の意味拡張をもたらす認知的な機構が「感覚と気分の同時体験」と「心の理論」「尺度融合」という3つであると究明した。そして、「明るい」を例に、多くの研究で行われている、メタファー・メトニミー・シネクドキーという3種類の比喩に基づく多義語分析を批判的に検討している。松浦（2017）は「明るい」と「暗い」における、「光」と視覚を基盤としたメタファー的意味の実現を解明した。「明るい」と「暗い」には、光源として発光体が存在し、「光」で照らされる空間とそれを知覚する視界が身体体験として存在する。この「光」の捉え方が目標領域の感情・知識・時間において、メタファー的意味の実現に影響を与えていることを指摘している。

曹青（2017）は「明るい」「暗い」と中国語の“明”“暗”の多義構造を対照して意味拡張のプロセスを分析し、それらの共通点と相違点を明らかにしたが、なぜそういう異同が生じてくるという認知の背後にある原因についてはまだ検討する余地が

*北京外国語大学北京日文学研究センター・院生

あると思われる。刘燕（2019）はBCCWJを使いつつ認知言語学の知識を用いて「明るい」の意味拡張のプロセスについて分析を行ったが、データの収集や選択、分析過程などが含まれるデータの出自を明確に提示していないため、やや説得力に欠けると考える。

2.2 先行研究の問題点

上述の先行研究を概観し、以下のような問題点をまとめてみた。

(1) 「暗い」と“暗”の中日対照研究はあまりなされていない。「暗い」と“暗”の意味拡張や意味構造における共通点と相違点は明らかにされていると言えない。それに、両者には対称性があるかどうかを解明しようとする研究もほとんど存在していない。

(2) 統語的研究もあまりなされていない。語彙論や意味論の観点に拘り、統語論の観点から形容詞の文中での機能などをとするものは少ない。

紙幅の関係で、本稿は問題点（1）を解決しようとし、問題点（2）の解決を今後の課題としたい。よって、本稿は「暗い」と“暗”を研究対象にし、その意味拡張のプロセスとその中に反映される認知の動機づけを解明して対照することによって、両者には対称性があるかどうかを考察する。

3. 理論背景および研究方法

3.1 理論背景（メタファー、メトニミー、シネクドキー、プロトタイプの意味）

意味拡張は認知言語学における一つ概念であり、語がプロトタイプの意味から新たな意味へと派生し、最終的に多義語になるというプロセスである。それに、その意味拡張のプロセスにおいて、メタファーとメトニミー、シネクドキーは主な認知の動機づけである。

大堀（2002）によれば、メタファーとは、抽象的な概念と明確な形をもった具体的な概念との間

に成り立つ一定の対応関係である（p.74）。単一概念領域の中で、プロフィールが移行することによって成り立つ捉え方をメトニミー（metonymy, 換喩とも）という（p.76）。下の例1と例2はメタファーの具体例であり、例3と例4はメトニミーの具体例である。

例1：我々は十字路に立っている。

例2：情報の流れが悪い。

例3：今晚鍋を食べよう。

例4：永田町が大騒ぎだった。

例1は危険な婚姻状態という抽象的な概念を「十字路に立つ」という日常生活における具体的な概念に準え、例2は「情報」という抽象的な概念を液体という具体的な概念に準える。いずれにしても、準える側と準えられる側の間に類似点が見られる。また、例3と例4はそれぞれプロフィールが移行し、すなわち例3の「中身」から「鍋」へ、例4の「永田町の住民」から「永田町」へという移行するプロセスが窺える。

辻（2013）はシネクドキーを、「包含関係（類と種の関係）に基づいて転義（意味のズレ）が起こる比喩で、上位概念で下位概念を指したり、下位概念で上位概念を指すものを言う」と定義している（p.238）。具体例は以下のようなものである。

例5：昨日花見に行った。

例6：明日も天気だといひね。

例5は「花」という上位概念で「桜」という下位概念を指し、それと同様に、例6は「天気」という上位概念で「晴れ」という下位概念を指すというような類と種の関係の転換が分析できるであろう。

また、語のプロトタイプの意味について、瀬戸（2007：47）はプロトタイプの意味が（i）文字通りの意味である、（ii）関連する他の意味を理解する上での前提となる、（iii）具体性（身体性）を持つ、（iv）認知されやすい、（v）想起されやすい、（vi）用法上の制約を受けにくい、（vii）意味展開の起点（接点）となる、（viii）言語習得の

早い段階で獲得される、(ix) 使用頻度が高いという特徴を持っていると述べている。

3.2 研究方法

研究方法としては、日本の国立国語研究所によって開発された『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)と中国における唯一の大規模均衡コーパスである『国家語委現代漢語コーパス』を利用する。

具体的には、『国家語委現代漢語コーパス』から検索した399件の用例から47件の形容詞ではない“暗”を削除し、総じて352件の用例を収集した。一方、BCCWJでは中納言を利用して「暗い」の単純語と形容詞としての用法だけを抽出し、「暗し」と「暗き」のような文語や「暗さ」のような名詞、「仄暗い」「後ろ暗い」のような複合語としての用法を研究対象としない。そして、“暗”の用例数との差をできるだけ小さくするために、その中からランダムサンプリングによって400の用例を抽出した。

4. 「暗い」と“暗”の意味拡張

4.1 「暗い」の意味拡張のプロセス

4.1.1 「暗い」の語義分布

コーパスを利用することによって、「暗い」の意味項目を表1のようにまとめた。

表1 「暗い」の各意味領域の用法

| 意味領域 | 意味項目 | 具体例 |
|-------------|------------------------------|---|
| (一) 身体体験 | ①光の量が少なく物がよく見えない状態である。(270件) | (1) 街路灯ひとつない暗い山道だが、視界は明るかった。 『千里眼マジシャンの少女』 |
| | ②色が黒ずんでいる。(10件) | (2) 暗い緑がかかった灰色の衣装をまとっていた。 『真田三妖伝』 |

| | | |
|--------------|-----------------------------|---|
| (一) 身体体験 | ③声が沈んでいる。(4件) | (3) 子供と話している時の明るい口調は影を潜め、彼女もまた暗い声になって言う。 『龍臥亭事件』 |
| (二) 物事の状態 | ④希望が持てない状態である。(9件) | (4) 食糧の備蓄は見える見る減ってゆき、収入のない河野一家は前途に暗いものを覚えていた。 『もうひとつの昭和』 |
| | ⑤不幸・不運を感じさせるさまである。(10件) | (5) 暗い、胸躍る過去をもつ男。 『孤独の発明』 |
| | ⑥(物事が与える)印象・感じが陰気である。(34件) | (6) その暗いイメージが私の全身を覆いはじめるようになった。 『悪と往生』 |
| (三) 人間活動 | ⑦(人の性格や気分が)陰気で晴れ晴れしない。(61件) | (7) 暗い奴は皆が遠ざかるはず。 Yahoo! ブログ |
| | ⑧事情に通じていない。(2件) | (8) 実は、わたしほど現実感覚に疎い、あるいは現実の社会事情に暗い社会科学の専攻者はそうはいないだろうと思う。 『現代日本のイデオロギー』 |

4.1.2 「暗い」の意味拡張の認知の動機づけ

前節で述べたプロトタイプの意味の認定基準によって、「暗い」のプロトタイプの意味は①となるということがわかる。それは視覚器官で光度を感じ、周囲の光が少ないとわかる意味である。例(2)の「暗い」は①からメトニミーによって拡張される。光の量が少ないゆえ、物の色も暗く見える。そこには〈共起〉という意味展開パターン¹が見られる。例(3)の「暗い」は①からメタファーによって拡張される。声のボリュームが低いのと光の量が少ないのとは類似性があり、〈特性類似〉という意味展開パターンが見られる。そして、例

(4)の「暗い」は①からメタファーによって拡張される。それは周囲の光が少ないという空間的な意味から、未来への道に光が少ない²(希望を持ってない)という時間的な意味へと拡張する意味項目であり、〈特性類似〉のパターンが見られる。例(5)の「暗い」は④からシネクドキーによって拡張される。④と⑤は種で類を表すという〈種で類〉の意味展開パターンが見られる。また、例(7)の「暗い」は①からメトニミーによって拡張される。光が足りないから人が陰気であるという〈原因—結果〉の意味展開パターンが見られる。例(6)の「暗い」は⑦からメタファーによって拡張される。「人が陰気である」と「物事が与える」印象が陰気である」とは類似性があり、〈特性類似〉という意味展開パターンが見られる。例(8)の「暗い」は①からメタファーによって拡張される。「光が足りない」と「知識が足りない」は具体的な概念から抽象的な概念へと拡張され、両者には類似性があり、〈特性類似〉というパターンが見られる。

4.1.3 「暗い」の意味ネットワーク

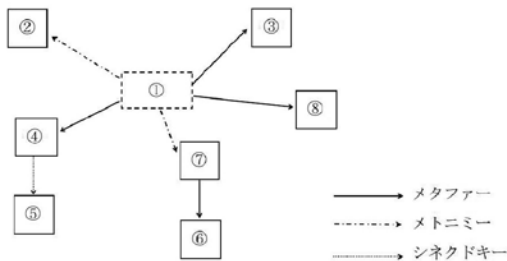


図1 「暗い」の意味ネットワーク

4.2 “暗”の意味拡張のプロセス

4.2.1 “暗”の語義分布

コーパスを利用することによって、「暗い」の意味項目を表2のようにまとめた。

表2 “暗”の各意味領域の用法

| 意味領域 | 意味用法 | 具体例 |
|-------------|----------------------|---|
| (一) 身体験 | ① 光线不足, 黑暗。(195件) | (1) 这是一座接有厚厚窗帘的西式房子, 室内微暗。《三四郎》 |
| | ② (颜色) 浓重, 不鲜艳。(50件) | (2) 现在时兴染发, 如果你的头发又暗又亮, 人家也许会认为你是染的。《她本来长得并不丑》 |
| | ③ (气味) 不刺鼻。(3件) | (3) 二楼上, 暗香浮动, 一间大卧室里门半开着, 看到一座四扇排门的织锦屏风挡着视线。《战争和人》 |
| | ④ (声音) 沉闷而不清脆。(1件) | (4) 圣·桑的交响诗《骷髅之舞》中有意将E弦调低半音演奏, 以求获得暗的音响效果。《音乐日日谈》 |
| (二) 人間活動 | ⑤ 秘密的, 隐藏不露的。(92件) | (5) 恰巧这时候有一小队的敌人从右角斜向左角的友军的阵地实行暗袭, 给第二排的弟兄碰见了, 立即开起火来。《第七连》 |
| | ⑥ 糊涂的, 愚昧的, 不明白。(5件) | (6) 古人有言, 兼听则明, 偏听则暗。《皖南事变本末》 |
| | ⑦ 心情不好, 情绪变差。(6件) | (7) 丹妮的脸色暗下来, 木兰看出了她焦虑的神情。《风声鹤唳》 |

4.2.2 “暗”の意味拡張の認知の動機づけ

“暗”のプロトタイプの意味は「暗い」と同様であり、①となる。例(2)の“暗”は①からメトニミーによって拡張される。「暗い」と同様に、周囲の光が足りないから、色も鮮やかではなくなる。つまり、そこに〈共起〉という意味展開パターンが使われる。例(3)と例(4)の“暗”は実是一種の共感覚的比喩表現³であり、それぞれ視覚から嗅覚へ、視覚から聴覚へという意味拡張の方向が見られる。よって、両者ともに①からメタファーによって拡張される。例(5)の“暗”も①からメタファーによって拡張される。そこに〈特性類似〉という意味展開パターンが見られ、「光が足りな

いから（よく）見えない」と「行動が隠密だから（よく）知らない」とは類似性がある。また、例（6）の“暗”は⑤からメトニミーによって拡張され、隠密だから愚かでよくわからないという〈原因—結果〉の意味展開パターンが含まれる。例（7）の“暗”は①からメトニミーによって拡張され、「暗い」の意味項目⑦と同様に、〈原因—結果〉というパターンが見られる。

4.2.3 “暗”の意味ネットワーク

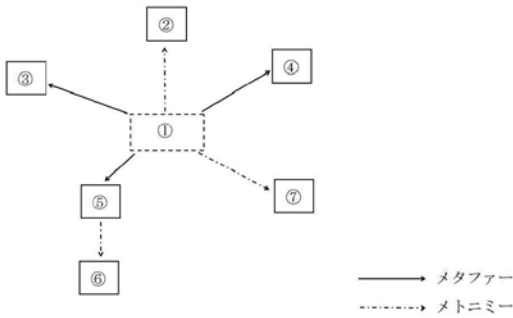


図2 “暗”の意味ネットワーク

5. 「暗い」と“暗”の意味構造と意味拡張の対照

前節は「暗い」と“暗”の意味拡張と意味構造をそれぞれ考察した。今節は両者を対照することによって、その意味拡張と意味構造において対称性があるかどうかを解明し、背後にある原因を分析してみる。結果は表3にまとめている。

表3 「暗い」と“暗”の対照 (%)

| 対照項目 | | 暗い | 暗 |
|--------------|-------------|-------------------|---------------|
| (一) 身体体験 | ① 視覚 | 光度 67.5 彩度 2.5 | 55.41 14.2 |
| | ② 聴覚 | 1 | 0.28 |
| | ③ 嗅覚 | × | 0.85 |
| (二) 物事の状態 | ④ 希望 | 2.25 | × |
| | ⑤ 不幸・不運 | 2.5 | × |
| | ⑥ (物事への) 印象 | 8.5 | × |

| | | | |
|----------------------|-----------|-------|-------|
| (三) 人間活動 | ⑦ 隠密 | × | 26.14 |
| | ⑧ 性格・気分 | 15.25 | 1.7 |
| | ⑨ 知恵 | × | 1.42 |
| | ⑩ 精通していない | 0.5 | × |
| (四) 意味拡張の 動機づけ | メタファー | 57.14 | 50 |
| | メトニミー | 28.57 | 50 |
| | シネクドキー | 14.29 | × |

「暗い」と“暗”の意味拡張の特徴から見れば、いずれにしても物事・人のような具体的な意味領域から心理、感情といった抽象的な意味領域へと拡張する。それに、両方とも意味項目が比較的に少ないため、その意味拡張のプロセスはそれほど複雑とは言えない。また、日本語の「暗い」と中国語の“暗”はプロトタイプの意味がいずれも「光度が足りない」、「物が（よく）見えない状態」である。それは認知主体の身体体験を物事の性質として認知する、という認知のストラテジーが働いていると言えるだろう。

しかしながら、「暗い」と“暗”の意味拡張は以下のような相違点がある。まず、「暗い」の意味拡張の動機づけにはシネクドキーがあるのに対して、“暗”にはメタファーとメトニミーしかない。それに、「暗い」の意味拡張の動機づけはほぼメタファーに集中しているのに対して、“暗”はより均衡性があり、メタファーとメトニミーの2つが使われる。また、「暗い」と“暗”はそれぞれ特徴的な意味項目があり、「暗い」は「希望を持ってない状態」「不幸・不運を感じさせるさま」を表せるが、“暗”は「愚かである」「隠密である」を表せ、しかも共感覚的の比喩表現において「暗い」とは異なり、視覚から嗅覚へと拡張できる。それに加え、日本語の「暗い」は物事の状態ドメインへ拡張できるのに対して、中国語の“暗”は物事の状態ドメインが存在していないという相違点が見られる。

したがって、「暗い」と“暗”は非対称性があるのではないと言える。その原因に関しては、中国と日本のそれぞれの独特な文化や民族性と深く

関わっていると考えられる。紙幅の関係で、今後の課題としたい。

6. おわりに

本稿は多義的視覚形容詞「暗い」と“暗”の意味拡張を対象にし、中日対照研究を行った結果、両者には非対称性があるということがわかった。紙幅の都合で、その意味構造の非対称性に関する原因について考察できなかつたが、今後の課題としたい。

【注】

- 1 瀬戸 (2007) は多義語の意味記述のために、語の意味展開パターンを提示している。詳細は瀬戸 (2007: 51) を見られたい。
- 2 それは概念メタファー〈LIFE IS A JOURNEY〉から出てきた意味であり、中国語の“未来的路”“前途”とも似ている部分がある。
- 3 「共感的比喩」に関して、武藤 (2015) は「五感を表す語における、ある感覚から異なる感覚への意味の転用」と定義している。
- 4 表にある“×”はその意味項目が存在していないことを表している。

【参考文献】

1. 大石亨 (2007) 「日本語形容詞の意味拡張をもたらす認知機構について」『日本認知言語学会論文集 7』, pp.160-170
2. 大堀壽夫 (2002) 『認知言語学』東京大学出版会
3. 北原保雄 (2010) 『日本語の形容詞』大修館書店
4. 姜紅 (2013) 『日本語の多義的感覚形容詞の意味分析に関する研究—意味分析モデルの構築へ—』北京外国語大学博士論文
5. 瀬戸賢一 (2007) 「メタファーと多義語の記述」楠見孝 (編) 『メタファー研究の最前線』ひつじ書房, pp.31-61
6. 曹青 (2017) 「日本語における「明るい」「暗い」の意味拡張について—中国語の形容詞“明”“暗”との対照を兼ねて—」《日语教育与日本学研究》2017, (00)
7. 谷口一美 (2003) 『認知意味論の新展開—メタファーとメトニミー—』研究社
8. 辻幸夫 (2013) 『新編 認知言語学キーワード事典』

研究社

9. 松浦光 (2017) 『現代日本語における気象現象の概念化—概念メタファー理論によるアプローチ—』名古屋大学博士論文
10. 武藤彩加 (2015) 『日本語の共感的比喩』ひつじ書房
11. 刘月华, 潘文娒等. 实用现代汉语语法 [M]. 2001年, 北京: 商务印书馆
12. 刘燕. 基于认知视角探析日语多义语的语义扩张——以形容词「明るい」为中心 [J]. 《文化创新比较研究》2019, 3 (12)
13. 于康. 语义扩展模式与汉日语对比研究 [J]. 《语言科学》第4卷第一期, 2004年

コーパス:

国立国語研究所 (2023) 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 <https://clrd.ninjal.ac.jp/bccwj/> (2023年1月11日確認)